

昭和63年～平成元年度事業記録

Report on the Activities in Fiscal 1988-89

I. 国立西洋美術館開館30周年記念関係記録 Thirtieth Anniversary of the National
Museum of Western Art, Tokyo

[式典]国立西洋美術館開館30周年記念式典

日時:平成元年6月9日(金) 14:00～17:00

会場:本館 19世紀ホール前

挨拶:前川誠郎(国立西洋美術館長), 松方為子(松方家代表)

祝辞:植木浩(文化庁長官), ベルナール・ドラン(駐日フランス大使), ミッシェル・
ラクロット(ルーヴル美術館長)

[出版]『国立西洋美術館開館30年史』

[展示]開館30周年記念展示——松方コレクションと創設以来の収集の成果——

日時:平成元年6月10日(土)～7月16日(日)

2. 特別展記録 Special Exhibitions



マックス・クリンガー展 ライプツィヒ美術館/国立西洋美術館所蔵作品

会期:昭和63年4月23日～6月19日

主催:国立西洋美術館, ライプツィヒ美術館

出品内容:絵画20点, 彫刻15点, 素描44点, 版画149点

Max Klinger——Werke aus dem Besitz des Museums der bildenden Künste Leipzig, und des Nationalmuseums für Westliche Kunst, Tokyo

23 April-19 June 1988

Exhibited works : 20 paintings, 15 sculptures, 44 drawings, 149 prints

世紀末から今世紀初頭にかけて, 絵画, 彫刻, 挿絵など幅広い分野で活躍したドイツの美術家クリンガーの活動を, ライプツィヒ美術館の所蔵作品に当館所蔵の版画を加えて概観した。



ジャポニスム展 19世紀西洋美術への日本の影響

会期:昭和63年9月23日～12月11日

主催:国立西洋美術館, 国際交流基金, 日本放送協会, 読売新聞社, フランス国立美術館
連合, オルセー美術館

出品内容:絵画55点, 彫刻7点, 素描94点, 版画56点, 書籍11点, 工芸190点, 写真16点

Japonisme

23 September-11 December 1988

Exhibited works : 55 paintings, 7 sculptures, 94 drawings, 56 prints, 11 books, 190 works of applied art, 16 photographs

19世紀後半, フランス印象派を初めヨーロッパのあらゆる分野の美術家たちに日本の美術品が影響を与え, ジャポニスムと呼ばれる現象が巻き起こされた。この展覧会はパリのオルセー美術館との共同作業により, フランスを中心とするこの動きを総合的に紹介する試みで, 東京の前にまずパリのグラン・パレで開催された。



ヴァチカン美術館特別展 古代ギリシャからルネサンス、バロックまで

会期：平成元年3月21日～5月21日

主催：国立西洋美術館，ヴァチカン美術館，日本テレビ放送網，読売新聞社

出品内容：絵画30点，彫刻18点，書籍3点，工芸11点

(同6月3日～7月16日 福岡市美術館，同8月1日～9月10日 京都国立近代美術館)

Masterpieces from the Vatican——Japan 1989

21 March-21 May 1989

Exhibited works : 30 paintings, 18 sculptures, 3 books, 11 works of applied arts

ローマ・カトリックの総本山ヴァチカンが誇る美術コレクションの中から，古代ギリシャ，ローマから中世，ルネサンス，バロックに至るまでの絵画，彫刻，工芸，写本などを選びめぐり，西洋美術の源流とその展開とを紹介した。



ドラクロワとフランス・ロマン主義展

会期:平成元年8月5日～10月1日

主催:国立西洋美術館, 東京新聞

出品内容:絵画72点

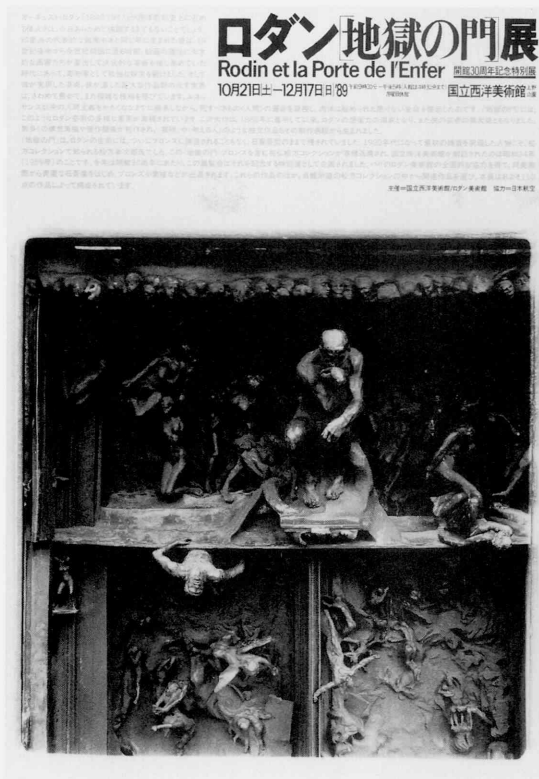
(同10月10日～11月26日 名古屋市美術館)

Delacroix et le Romantisme français

5 Auguste-1st October 1989

Exhibited works : 72 paintings

ロマン主義は、19世紀前半、ヨーロッパのあらゆる文化領域に巨大な刻印を残したが、そのうち特にドラクロワを中心として展開したフランスの絵画におけるロマン主義をとり上げ、主題別に七つのジャンルに分けて総合的に紹介概観した。



ロダン[地獄の門]展

会期:平成元年10月21日～12月17日

主催:国立西洋美術館, ロダン美術館

出品内容:彫刻79点, 素描30点

Rodin et la Porte de l'Enfer

21 October-17 December 1989

Exhibited works : 79 sculptures, 30 drawings

開館以来, 当館は世界有数のロダンのコレクションを所有するが, その中でも作者畢生の大作『地獄の門』に焦点を当て, パリのロダン美術館所蔵のブロンズ, 石膏原型, 素描に, 当館所蔵のブロンズ彫刻を加え, その創作の全貌を探った。



プラハ国立美術館所蔵 ブリュージュエルとネーデルラント風景画展

会期:平成2年3月20日～5月27日

主催:国立西洋美術館, 京都国立近代美術館, プラハ国立美術館, 朝日新聞社

出品内容:絵画58点

(同3月20日～5月27日 京都国立近代美術館)

Brugel and Netherlandish Landscape Painting from the National Gallery Prague

20 March-27 May 1990

Exhibited works : 58 paintings

15世紀から17世紀までの近世北方風景画の展開を、ブリュージュエルの《干草の収穫》を中心に、チェコスロバキアのプラハ国立美術館所蔵の風景画58点をもって紹介した。

3. 巡回展記録 Tour Exhibitions

国立西洋美術館所蔵

ロダン展

会期：昭和63年5月13日～6月12日

主催：倉吉市，倉吉博物館

出品内容：彫刻23点，素描8点，版画5点

国立西洋美術館所蔵

近代フランス絵画展

会期：平成元年4月15日～5月14日

主催：国立西洋美術館，都城市立美術館，宮崎日日新聞社

出品内容：絵画30点

国立西洋美術館所蔵

マックス・クリンガー版画展

会期：平成元年4月15日～5月14日

主催：名古屋市美術館，朝日新聞社

協力：国立西洋美術館

出品内容：版画104点

4. 講演会記録 Lectures

〈マックス・クリンガー展〉記念講演会

昭和63年4月23日

マックス・クリンガーとその芸術

ディータ・グライスベルク(ライプツィヒ美術館長)

〈ジャポニスム展〉記念講演会

第1回 昭和63年9月23日

近代美術の源泉としての日本

ジュスヴィエーヴ・ラカンブル(オルセー美術館主任研究官/ギュスターヴ・モロー美術館長)

第2回 同11月5日

ジャポニスム——結晶作用の芸術

前川誠郎(国立西洋美術館長)

第3回 同11月12日

ヨーロッパから見た日本——ジャポニスムへの背景

金井圓(東京大学名誉教授)

第4回 同11月19日

西洋美術の中のジャポニスム

高橋明也(国立西洋美術館主任研究官)

第5回 同11月26日

映画「アール・ヌーヴォーと高島北海(ジャポニスムとエミール・ガレ)」

サザンクロス・アソシエイツ制作

〈ヴァチカン美術館特別展〉記念講演会

第1回 平成元年4月15日

法王庁と画家たち——14～15世紀を中心として

生田圓(国立西洋美術館主任研究官)

第2回 同4月22日

ヴァチカンの古代彫刻とルネッサンス芸術家

越川倫明(国立西洋美術館研究員)

〈ドラクロワとフランス・ロマン主義展〉記念講演会

第1回 平成元年9月16日

フランス・ロマン主義とその時代

阿部良雄(東京大学教授)

第2回 同9月23日

19世紀美術とフランス・ロマン主義

高橋明也(国立西洋美術館主任研究官)

〈ロダン[地獄の門]展〉記念講演会

第1回 平成元年11月25日

地獄の門——モチーフ

長谷川三郎(国立西洋美術館学芸課長)

第2回 同12月9日

ロダンの《地獄の門》を撮って

安斎重男(写真家)

第3回 同12月16日

ロダンと近代

穴澤一夫(美術史家)

〈ブリューゲルとネーデルラント風景画展〉記念講演会

第1回 平成2年4月21日

ネーデルラントにおける風景画の成立とその展開

中村俊春(国立西洋美術館研究員)

第2回 同4月28日

ブリューゲルの《干草の収穫》と月暦表現の伝統

森洋子(明治大学教授)

5. 修復記録 Restorations

所蔵作品番号/作家名・作品名/材質・寸法

.....

P.1959-160

アドルフ・モンティセリ

《カシスの港》

油彩 檜の合板(三枚合わせ)

34.3×51cm

損傷観察事項

1. 地塗りがなく檜の板地が背景の一部として利用されニス焼けを生じている。
2. 保護ニスが過剰で、黄変が激しい。
3. 絵の具層表面に虫ふんならびに黒色の汚損。

処置事項

1. イソプロピルアルコール+W・スピリットで黄変ニスを洗浄。画肌の絵の具の盛り上げの激しい部分については顕微鏡を用いて洗浄。
 2. 虫ふんならび黒色の汚損は顕微鏡下、メスを用いて削除。
 3. ダマーニス6%(テレピン精油)を刷毛で塗布。
 4. 額装の改良。
-

P.1959-138

アンリ・マルタン

《テラス》

油彩 カンヴァス

91×116.6cm

損傷観察事項

ニスが施されていず、絵の具層にほこりや微細な黒色粉塵の蓄積、固着が認められる。全体的に画面は薄汚れ沈んだ色調を呈している。

処置事項

1. 弱アルカリ石鹼による洗浄。洗浄中、石鹼分はH₂Oで除去の後、石油ベンジンで残留油脂を除去。

2. 保護ニスとしてダマー樹脂10%+テレピン精油を塗布。

P.1988-1

ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ

《ヴィーナスによって天井に導かれる ヴィットール・ピサーニ提督》

油彩 カンヴァス

41×72cm

損傷観察事項

作品は横長の長方形であるが画面は各辺に接する長楕円形で、天井画のひな型として描かれ、楕円の輪郭を示すため黒褐色絵の具で周辺を縁取りしている。この輪郭部が額縁のカブリに当たり、小欠損や亀裂の浮き上がりを生じている。

処置事項

1. 欠損部及びその周辺にP.V.At5%を含浸。
 2. 亀裂の浮き上がりは同接着剤を含浸させ加温加圧し平面化、固定。
-

P.1965-11

ホアン・ミロ

《絵画》

油彩 カンヴァス

200×200.7cm

損傷観察事項

画面中、背景地に当たるブルーグレーの中に白色のブラッシュ・ストロークがあるが、絵の具中のメディウムが不十分で、脆弱である。特に左上部に認められる擦り付けられただけの白色絵の具はいくつかの欠損、浮き上がりを生じている。

処置事項

1. 欠損部にP.V.At5%を微量含浸。
 2. 浮き上がりにP.V.At5%含浸後、常温圧着。
-

P.1975-4

ジョン・エヴァリット・ミレイ

《あひるの子》

油彩 カンヴァス

121.7×76cm

損傷観察事項

1. 画面全体に渡りニスが黄変し審美性を損なっている。
2. 少女の胸元に収縮亀裂が生じ微細な欠損が認められる。

処置事項

1. ニスをイソプロピール・アルコール+W・スピリットで洗浄除去。
 2. 古い補彩はアンモニア10%を使用。少女の胸元の収縮亀裂および欠損部に残存する汚れ、更に顔面左の古い補彩に水彩絵の具(ガッシュ)で補彩。
 3. 新しいニスとしてダマーニス10%を刷毛で塗布。
 4. 額装の改良。
-

P.1968-3

バルナ・ダ・シエナ

《聖ミカエルと竜》

テンペラと油彩 板(ポプラ)

40.5×19cm

損傷観察事項

ニス塗布後、乾燥不十分で額装されていた為、画面が額のかぶりに固着し右側辺に2カ所、左側辺に3カ所の欠損を生じた。左の欠損は古い充填部である。

処置事項

1. 胡粉と膠の充填材で充填。
 2. 充填部を表面隔離後水彩絵の具(ガッシュ)で補彩。
 3. 部分ニスとしてダマーニス10%を小筆で塗布。
 4. 額装の改良。
-

P.1975-8

クロード・ロラン

《踊るサティロスとニンフのいる風景》

油彩 カンヴァス

98×125cm

損傷観察事項

1. 中央左上方の雲に古い修復部があり充填材が反り返り、周辺より剥離している。
2. 更に周辺部に多くの必要以上の加筆があり黄変している。

処置事項

1. 空の雲のみ部分的に洗浄。イソプロピルアルコール+W・スピリット使用。残留する油彩の過加筆はエチルアルコールで除去。更に古い加筆ならびに汚損は顕微鏡下、メスで除去。
2. 欠損部に白亜と膠の充填材を施す。
3. 下補彩にガッシュ使用。
4. 部分ニスにダマーニス6%+テレピン精油。
5. 仕上げ補彩に油抜き油絵の具+ダマーニス(上記)。
6. 額装の改良。

.....

P.1959-39

シャルル・コッテ

《悲嘆、海の犠牲者》

油彩 カンヴァス

263×347cm

損傷観察事項

1. 張り枠に固定されているカンヴァスは釘の脱落、経年の伸縮によって変形し張り枠周辺部は膨らみを持っている。画面は全体的にたるみ、特に下辺部に向かって膨らんでいる。
2. 張り枠周辺には地塗り層を伴う絵の具層の欠損が多く認められる。
3. 画面にはニスが施されていず全体的に汚損が付着。
4. 画面中央左寄りに幅10cmから20cm長さ180cmに渡り強度の絵の具層の乳化白濁が認められる。更に右上部から幅60cmで下方に約80cmに渡り、滴下様の汚損ならび軽度の絵の具層の乳化白濁が認められる。乳化している絵の具層は色彩、その厚さにより損傷の度合いが異なり、特に酸化鉄を主成分とする絵の具層では表面も多孔質に変質し、メディウムが存在が確認できないほどであった。また表面の色も真っ白に変化していた。
5. 更に右上辺に線状の当たり傷、突き傷、引っかき傷など多く認められる。
6. 左下角は釘が脱落し張り枠より外れており、左から右下方に向かう長さ15cmの折れ傷があり、その周辺には多くの擦れ傷が認められる。

処置事項

1. 絵の具層の欠損部ならびに張り耳にP.V.At5%を含浸させ強化固定。
2. カンヴァスのたるみを調整し釘脱落部にガンタックを施す。
3. 画面の汚損を弱アルカリ石鹼+H₂Oで除去し、残留油脂分は石油ベンジンで除去。
4. 乳化した絵の具層にセルソルブを含浸させ色調を再生させた。この部分にはセルソル

ブ(エチレングリコール・モノエチルエーテル)を根気よく含浸させ続け、絵の具のメディウムを溶解し白濁を無くし元の色彩が回復したところで、セルソルブにダマーニスを混入した停止液で色調を固定した。

5. 保護ニスにダマーニス10%+テレピン精油を刷毛で施す。

処置追記

この作品は松方コレクションがフランスより返還された1956年より収蔵され35年間放置されていた。第二次大戦中、フランスではパリ郊外の倉庫に収容され、その時に雨漏りの被害を受けたと考えられる。画面中央左よりの絵の具層の乳化ならびに右上部の滴下様の汚損はその時のものと考えられる。今回の処置は35周年記念展示のため臨時に行なわれた。随時機会を見て後続の処置あるいは全面的な処置が望まれる。



修復前(部分)



修復後

P.1977-3

イサーク・ファン・オスターデ

《宿屋の前の旅人たち》

油彩 板(樫)

89×81cm

損傷観察事項

1. 画面周辺部の額下にあたる木素地の左角上部5mmのところに長さ50mmの裂と3×20mmの欠損、上辺部左角から20mmの所に欠損。下辺部右下角から75mmの所、同様に木素地が5×10mmに渡り欠損、更に130mmの所5×5mmの欠損。
2. 絵の具層に於いて右下角の草むら暗部に微細な亀裂があり浮き上がり多数。

3. 全体にニス黄変し、ニス層のみの亀裂が認められる。

処置事項

1. 素地欠損部にP.V.At5%を含浸させ補強。欠損部にアガチス材充填整形。
 2. 絵の具層の浮き上がりにP.V.At2%を含浸、加温加圧で平面化した。
 3. ニスはテレピン精油で調整除去しその上に新しいニスとしてダマーニス5%+テレピン精油を刷毛で塗布。
-

P.1981-3

セーヘルス/コルネリス

《花の聖母子》

油彩 板(桎)

77×53.5cm

損傷観察事項

1. 額のかぶりに作品の周辺部が直接当たり、ニス層および絵の具層の欠損が多数生じている。特に下辺の中央左寄りに絵の具層の欠損が在り額側に固着。
2. 古い額装は板3枚縦継ぎを反り返っている作品の板を額の内側から周辺部を角棒で押さえ込むようにして釘で固定されていた。

処置事項

1. 絵の具層欠損部にP.V.At2%+H₂Oを含浸。下辺の絵の具層剥落欠損部の断片3×5mmを加温圧着。
 2. 古い欠損部に白亜+膠の充填、補彩。
 3. 部分ニスにダマーニス5%+テレピン精油を施す。
 4. 額装の改良。額のかぶりに5mm厚のフェルトを絵の具層保護のために糊付けした。画面裏の中央部、縦方向に継がれている正目板に従って2cm角の棒の接面にフェルト5mm厚を糊付けたもので上下の辺の中央部を額の上から2点固定した。左右の反りのある部分は10mm×20mmの角材に5mm厚のフェルトを糊付けしたものに額から3点、止め金物を曲げて板を軽く押さえるように固定した。裏面はシナベニア3mm厚で保護。
-

P.1960-1

ハイム・スーティン

《狂女》

油彩 カンヴァス

96×60cm

損傷観察事項

直径1〜2mmの黒点状の付着物が特に左辺側に集中、虫糞にしては大きい。症状は類似し絵の具層に強固に付着、箇所によっては地塗り層を含み収縮し持ち上げ反り返らせている。

処置事項

1. 付着物は溶剤では不可溶でありまた膨潤軟化せず平面化、固定は不可能である。一部の固定の不可能なもので反り返りの激しいものはP.V.At2%で固定。付着固化しているものはメスで削除した。
2. 黒点上をガッシュで補彩、部分ニス塗布。
3. 額装改良。

.....
P.1959-123

レオン・レルミット

《落穂拾い》

油彩 カンヴァス

65.4×81.2cm

損傷観察事項

1. 画面ニスの黄変。額装した状態でニス引きされている。変形した額のかぶりがあり、上辺10mm、下辺40mm、左右の辺は各5mmのかぶりを除いてニスが施されている。サインの位置及びその周辺の描画技法から判断するに作者自身の意志によって変形した額装が決定され、更に仕上げの描き加えがされたと考えられる。当初、カンヴァスを板にピン止めし鉛筆の当たり付けをし、制作。更に現在の本枠に張り制作し直し、取り外している。再び同じ本枠に張り戻すのに右辺に8〜9mm、下変に10mmずらして張り戻している。その後さらに描き込み、額装し仕上げの描き込みをしている。そのため左下部のサインは額のかぶり40mm幅より上部に位置している。
2. 作品上辺の釘穴は画面側に露出し、絵の具層の粉化、欠損、素地の裂を生じている。
3. 画面、背景の空に Foxing のような汚損が数多く認められる。
4. 上辺右の額かぶりの線に10mm長、2〜3mm幅の地塗り層を伴う欠損。その下方に膠着剤付着による汚損小が認められる。
5. 下辺左中より、藁束の白色厚塗り部に10mm長、3〜4mm幅の地塗り層を伴う欠損。右辺下部に額ずれによる欠損小がある。

処置事項

1. ニスの洗浄は積み藁の黄色のグラッシュが溶剤に反応しやすいため、エチルアルコール1：テレピン精油5を刷毛で塗布しW.スピリットで除去。

2. 欠損部に白亜+膠の充填。ガッシュで補彩。
 3. ダマーニス+テレピン精油5%を刷毛で塗布。
-

P.1959-127

ピエール・マルケ

《オロンヌの浜》

油彩 カンヴァス

60.5×73cm

損傷観察事項

1. ニスは施されていず画面全体に黄灰色の汚損。
2. 額下かぶりのカンヴァス周辺部に黄変。
3. 額すれによるカンヴァス突起の欠損および汚損。
4. 四隅にピンホール。

処置事項

1. 洗浄は弱アルカリ石鹼による水溶性の汚損の除去。石油ベンジンで油脂除去。
 2. ダマーニス5%+テレピン精油を刷毛で塗布。
 3. 額装の改良。
-

P.1959-27

エミール・ボワイエ

《画家フジタの肖像》

油彩 カンヴァス

167.5×90.2cm

損傷観察事項

画面垂平方向に巻き折れと考えられる長い亀裂が数多く生じているが既に蜜蠟樹脂による裏打ちがされておりその時点では固定されていたと考えられるが、経年で蜜蠟樹脂が接着力を失い反り浮き上がったと考えられる。

処置事項(貸出处置)

この作品は現状維持を要する。特に処置の緊急性は認められないが蜜蠟樹脂の除去を行わない限り現況は改善されない。

1. 残存する蜜蠟樹脂を加温加圧し反り返りを固定。表面に部分的に溶出した蜜蠟樹脂をW.スピリットで洗浄除去。
2. 部分ニスにダマーニス5%+テレピン精油を小筆で塗布。

3. 額装改良。

追記(貸出処置から除外された内容として)

1. 艶消しニスを使用しているために色彩の機能喪失。
2. 画面に多くの蠟分が残存して汚損が固定されている。
3. 欠損部に充填材の欠如。
4. 欠損部のリッタチにオーバーペイント，色調不合。
5. 裏打ち接着不良による画面の盛り上がり。
6. 画面周辺に紙のテープ

(河口公夫)

6. 展覧会貸付作品 Works Lent Out

展覧会名/会期/会場	所蔵作品番号/作家名・作品名
「アメリカの美術・1945年以後」 1988年4月17日～6月5日 栃木県立美術館	P.1965-9 サム・フランシス《ホワイト・ペインティング》 P.1965-8 ジャクソン・ポロック《黒い流れ》
「20世紀絵画の展開」 1988年4月23日～6月19日 名古屋市美術館	P.1960-1 スーチン《狂女》 P.1956-6 レジェ《赤い鶏と青い空》 P.1965-10 デュビュッフェ《ご婦人のからだ(ほさほさ髪)》
<i>The Art of Paul Gauguin</i> 1 May–31 July 1988 National Gallery of Art, Washington 7 September–10 December 1988 Art Institute of Chicago	P.1959-105 ポール・ゴーガン《ブルターニュ風景》
<i>Japonisme</i> 17 May–15 August 1988 Grand-Palais, Paris	P.1959-148 クロード・モネ《舟遊び》 他6点
「西洋近代版画にみる『夢と幻想の系譜』展」 1988年6月11日～7月10日 群馬県立近代美術館	G.1984-57, 65, 75, 78, 80, 82, 86, 89 ゴヤ《ロス・カプリーチョス》より G.1981-5, 8, 19, 20, 21 ドラクロワ《ゲーテ「ファウスト」による連作》より
<i>Années 50</i> 29 June–17 October 1988	P.1965-8 ジャクソン・ポロック《黒い流れ》

Centre Georges Pompidou, Grand
Galerie 5è ét

親子で楽しむ「西洋美術の名作展」 1988年7月31日～9月4日	S.1962-1 ロダン《バルザック》
「1920-30年代 ラブソディ・イン・パリ ——田中保をめぐる画家たち」 1988年8月14日～9月30日	P.1959-190 田中保《裸婦》 P.1959-92 デスパニャ《浴女》
常設展示 1988年9月8日～12月19日 大原美術館	P.1959-165 カミーユ・ピサロ《立ち話》
「モジリアニとその仲間たち」展 1988年9月23日～11月6日 笠間日動美術館	P.1960-1 スーチン《狂女》
「ルノアール」展 1988年10月15日～1989年2月12日 名古屋市美術館, ひろしま美術館	P.1975-3 ルノアール《神々の会議》の模写 P.1959-182 ルノアール《アルジェリア風のパリの女たち》 P.1959-183 ルノアール《木かげ》 P.1975-5 ルノアール《風景の中の三人》
「20世紀絵画への招待」 1988年11月3日～12月4日 ふくやま美術館	P.1959-165 ジャン・デュビュッフェ《美しい尾の牝牛》
「近代日本彫刻の歩みー西欧との出会いー」 1988年11月3日～12月18日 静岡県立美術館	S.1959-39 ロダン《ジャン・ポール・ローランス》 S.1959-54 ブールデル《アナトール・フランス》

<i>L'art de Paul Gauguin</i> 9 January – 24 April 1989 Galerie national du Grand Palais, Paris	P.1959-106 ポール・ゴガン《海辺に立つブルターニュの 二少女》
「印象派と近代日本絵画展」 1989年4月15日～5月14日 長野県信濃美術館	P.1959-65 モーリス・ドニ《水浴》 P.1959-124 レオン＝オーギュスタン・レルミット《農夫》 P.1959-138 アンリ＝ジャン＝ギョーム・マルタン《テラス》
「ピラネージ版画展」 1989年5月21日～6月25日 町田市立国際版画美術館	G.1984-1～14 ピラネージ《牢獄》第1版 G.1987-423～438 ピラネージ《牢獄》第2版
「ギュスターヴ・クールベ」展 1989年6月3日～8月6日 ブリヂストン美術館	P.1959-60 クールベ《もの思うジブシー女》 P.1959-61 クールベ《畏にかかった狐》
<i>Paul Cézanne Die Badenden</i> 11 July – 17 September 1989 Kunstmuseum Basel	D.1959-6 ポール・セザンヌ《水差しとスーヴ容れ》
「フランス近代絵画の巨匠たち ミレーからブラックまで」 1989年7月24日～8月27日 村内美術館	P.1959-65 モーリス・ドニ《水浴》 P.1959-129 アンリ・マルタン《ラ・バスティードの聖堂》
「日常の小さな幸せ——アンティミスト の世界」 1989年8月5日～10月20日 埼玉県立近代美術館	P.1959-4 アマン・ジャン《本を読む女たち》 P.1959-30 カリエール《母と子》 P.1959-119

ルバスク《ハンモック》

P.1959-128

マルタン《縫い物をする女》

「親と子で見る世界の名画展パートII」

1989年8月26日～1990年1月28日

奈良県立美術館, 和歌山県立近代美術館,
福井県立美術館, 呉市立美術館

P.1974-5

ピカソ《男と女》

「名作にみる世界の子供たち展」

1989年8月5日～1990年3月25日

茨城県近代美術館, 大分県立芸術会館,
いわき市立美術館, 北海道立旭川美術館,
滋賀県立近代美術館

P.1959-71

モーリス・ドニ《字を書く子》

P.1975-4

ジャン・エヴァリット・ミレイ《あひるの子》

「松方コレクション展」

1989年9月14日～11月26日

神戸市立博物館

P.1959-182

ルノワール《アルジェリア風のパリの女たち》

他15点

Manet

15 September – 10 December 1989

Ordrupgaardsamlingen, Copenhagen

P.1984-2

エドゥアール・マネ《ブラン氏の肖像》

「現代美術の創造者たち」

1989年10月10日～11月9日

鳥取県立博物館

P.1965-5

マックス・エルンスト《石化した森》

P.1965-8

ジャクソン・ポロック《黒い流れ》

「郷愁のパリ 1920年代展」

1989年11月2日～12月10日

目黒区美術館

P.1960-1

スーチン《狂女》
